

【正誤表】令和4年度（3年度実施）神戸市立学校教員採用候補者選考試験  
第1次選考 筆記試験（令和3年6月26日）実施

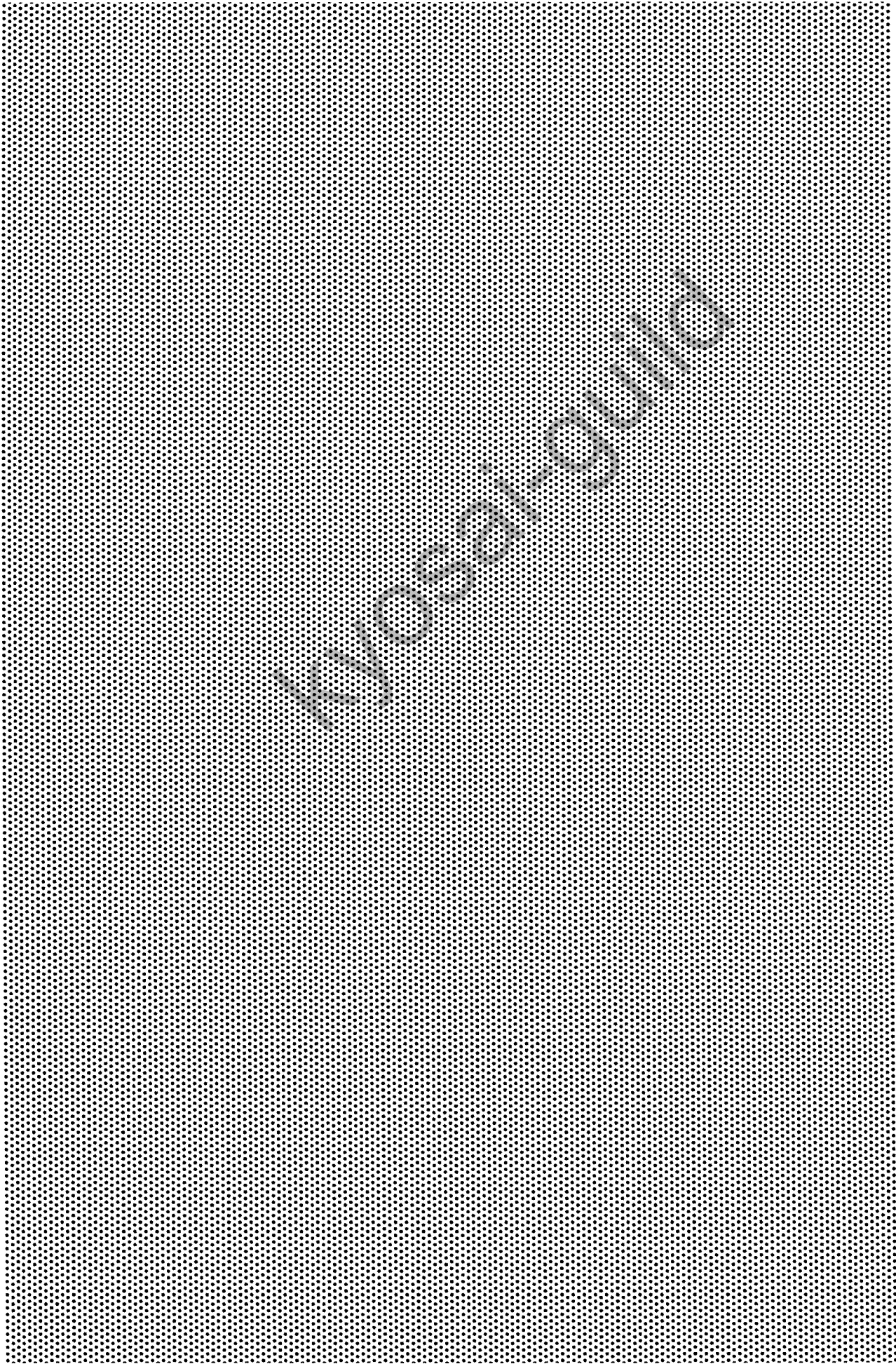
専門教科 中高 保健体育

問題番号【2】（3）（5ページ）の①と③の選択肢が同一の内容になっているため、下記の通り取り扱う。

【誤】「文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。」

【正】「文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①②④⑤から選び、番号で答えよ。」





【1】「学習指導要領解説特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）に記載されている道徳教育と道徳科について、次の問いに答えよ。

(1) 小学校（中学校）学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）における道徳教育の目標に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための道徳性を養うことを目標とする。
- ② 学校における道徳教育は、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。
- ③ 道徳教育は、学校や児童生徒の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために、道徳科はもとより、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われなくてはならない。
- ④ 各教育活動での道徳教育は、その特質に応じて意図的、計画的に推進することが大切であるが、相互に関連を図ることは適当ではない。
- ⑤ 学校における道徳教育は、児童生徒の発達の段階を踏まえて行われなければならない。

1

(2) 次の文は、小学校（中学校）学習指導要領解説特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）における道徳科の目標に関する記述の一部である。次の（ア）～（ウ）に入る語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に（ア）ための基盤となる道徳性を養うことである。その中で、道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の（イ）としての役割を果たすことができるよう、計画的、（ウ）な指導を行うことが重要である。

- ① （ア） よりよく生きる （イ） 要 （ウ） 応用的
- ② （ア） よりよく生きる （イ） 要 （ウ） 発展的
- ③ （ア） 主体的に生きる （イ） 要 （ウ） 応用的
- ④ （ア） よりよく生きる （イ） 中枢 （ウ） 発展的
- ⑤ （ア） 主体的に生きる （イ） 中枢 （ウ） 系統的

2

(3) 小学校(中学校)学習指導要領解説特別の教科 道徳編(平成29年7月 文部科学省)「第3章 道徳科の内容」では、指導すべき内容項目をA B C Dの4つの視点で分類整理し、その内容を端的に表す言葉を付記したものを見出しにして、内容項目ごとの概要、指導の要点を示している。次に示す5つは、内容項目の見出しである。このなかで「B 主として人との関わりに関すること」の視点に分類されるものはどれか、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 公正、公平、社会正義
- ② 家族愛、家庭生活の充実
- ③ よりよい学校生活、集団生活の充実
- ④ 礼儀
- ⑤ 生命の尊さ

【2】「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、総説に関する平成20年改訂の学習指導要領の成果と課題についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、体育と保健との一層の関連や発達段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図りつつ、指導と評価の充実を進めてきた。その中で、(ア)児童生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったこと、『する、みる、支える』のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果が見られる。

他方で、習得した知識や技能を(イ)課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく(ウ)こと等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること、子供の体力について、低下傾向には歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった昭和60年ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることなどの指摘がある。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな(エ)に対応した教育が必要との指摘がある。」としている。

- |   |   |             |   |       |   |      |   |      |
|---|---|-------------|---|-------|---|------|---|------|
| ① | ア | 運動やスポーツを行う  | イ | 関連付けて | ウ | 説明する | エ | 環境問題 |
| ② | ア | 運動やスポーツが好きな | イ | 活用して  | ウ | 伝える  | エ | 健康課題 |
| ③ | ア | 運動やスポーツが好きな | イ | 関連付けて | ウ | 伝える  | エ | 健康課題 |
| ④ | ア | 運動やスポーツが好きな | イ | 活用して  | ウ | 説明する | エ | 環境問題 |
| ⑤ | ア | 運動やスポーツを行う  | イ | 関連付けて | ウ | 伝える  | エ | 環境問題 |

(2) 次の文は、総説に関する保健体育科改訂の要点についての記述である。文中の(ア)～(オ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・「カリキュラム・マネジメント」の実現及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の(ア)を踏まえた指導内容の一層の充実を図るとともに、保健分野との一層の関連を図った指導の充実を図ること。
- ・運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や(イ)の有無等にかかわらず、運動やスポーツの(ウ)楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、(エ)の視点を重視して改善を図ること。
- ・(オ)における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善すること。

- |   |       |      |        |      |        |
|---|-------|------|--------|------|--------|
| ① | ア 系統性 | イ 障害 | ウ 多様な  | エ 共生 | オ 個人生活 |
| ② | ア 系統性 | イ 障害 | ウ 多様な  | エ 協力 | オ 個人生活 |
| ③ | ア 系統性 | イ 意欲 | ウ 個人的な | エ 協力 | オ 社会生活 |
| ④ | ア 整合性 | イ 障害 | ウ 個人的な | エ 協力 | オ 個人生活 |
| ⑤ | ア 整合性 | イ 意欲 | ウ 個人的な | エ 共生 | オ 社会生活 |

(3) 次の文は、総説に関する体育と保健の見方・考え方についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育や保健の見方・考え方を働かせとは、体育の見方・考え方については、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その(ア)に着目して、楽しさや喜びとともに(イ)に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」、保健の見方・考え方については、疾病や傷害を防止するとともに、(ウ)や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する(エ)に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や(ウ)の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」であると考えられる。

- |   |   |        |   |         |   |       |   |       |
|---|---|--------|---|---------|---|-------|---|-------|
| ① | ア | 可能性や特徴 | イ | 運動能力の向上 | ウ | 生活の基盤 | エ | 原則や概念 |
| ② | ア | 価値や特性  | イ | 運動能力の向上 | ウ | 生活の質  | エ | 原理や原則 |
| ③ | ア | 可能性や特徴 | イ | 運動能力の向上 | ウ | 生活の基盤 | エ | 原則や概念 |
| ④ | ア | 価値や特性  | イ | 体力の向上   | ウ | 生活の質  | エ | 原理や原則 |
| ⑤ | ア | 価値や特性  | イ | 体力の向上   | ウ | 生活の質  | エ | 原則や概念 |

6

(4) 次の文は、総説に関する12年間の系統性を踏まえた指導内容の見直しについての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

3年間の見通しをもった年間指導計画の作成及び指導計画の実施・評価・改善等を重視した「カリキュラム・マネジメント」を実現する観点及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の(ア)時期、多くの領域の(イ)時期、卒業後も運動やスポーツに(ウ)ことができるようにする時期といった(エ)のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への見通しを重視し、系統性を踏まえた指導内容の見直しを図ることとした。

- |   |   |         |   |         |   |          |   |       |
|---|---|---------|---|---------|---|----------|---|-------|
| ① | ア | 基礎を獲得する | イ | 学習を経験する | ウ | 継続して関わる  | エ | 発達の段階 |
| ② | ア | 基礎を獲得する | イ | 技能を習得する | ウ | 多様な形で関わる | エ | 生徒の実態 |
| ③ | ア | 基礎を獲得する | イ | 学習を経験する | ウ | 多様な形で関わる | エ | 生徒の実態 |
| ④ | ア | 基礎を培う   | イ | 学習を経験する | ウ | 多様な形で関わる | エ | 発達の段階 |
| ⑤ | ア | 基礎を培う   | イ | 技能を習得する | ウ | 継続して関わる  | エ | 発達の段階 |

7



- (5) 次の文は、総説に関するカリキュラム・マネジメントの充実についての記述である。文中の(ア)～(オ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

各学校においては、子供たちの姿や地域の実情を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを(ア)し(イ)していく「カリキュラム・マネジメント」の充実が求められている。

保健体育科においても、同様に「カリキュラム・マネジメント」の考え方に基づいた学習指導を充実させることが大切である。

その際、(ウ)、教員数、(エ)の要件等を踏まえた無理のない計画に基づく実施とその評価及び計画の改善を(オ)のものとして推進することが、教科における「カリキュラム・マネジメント」として大切である。

- |   |         |      |         |      |      |
|---|---------|------|---------|------|------|
| ① | ア 実施・評価 | イ 改善 | ウ 生徒の実情 | エ 施設 | オ 一体 |
| ② | ア 実施・評価 | イ 訂正 | ウ 教員の実態 | エ 教具 | オ 同一 |
| ③ | ア 計画・実践 | イ 改善 | ウ 教員の実態 | エ 施設 | オ 一体 |
| ④ | ア 計画・実践 | イ 訂正 | ウ 生徒の実情 | エ 教具 | オ 一体 |
| ⑤ | ア 実施・評価 | イ 改善 | ウ 教員の実態 | エ 教具 | オ 同一 |

(6) 次の文は、指導計画の作成と内容の取扱いに関する障害のある生徒などの配慮の例についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合には、生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう、用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて(ア)の活用を図ったりするなどの配慮をする。

・リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合には、動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう、動きを視覚的又は(イ)に変更したり(ウ)したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。

・勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合には、状況に応じて感情がコントロールできるよう、事前に活動の(エ)を立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。

- ① ア 支援装置    イ 文字情報    ウ 図式化    エ 見通し
- ② ア 補助用具    イ 言語情報    ウ 簡素化    エ 目標
- ③ ア 補助用具    イ 文字情報    ウ 図式化    エ 目標
- ④ ア 補助用具    イ 言語情報    ウ 簡素化    エ 見通し
- ⑤ ア 支援装置    イ 言語情報    ウ 簡素化    エ 目標

9

(7) 次の文は、指導計画の作成と内容の取扱いに関する内容の取扱いの配慮事項についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

言語能力を育成する言語活動を重視し、(ア)を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や(イ)について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な(ウ)の育成を促し、(エ)な学習活動の充実を図ること。

- ① ア 計画    イ 早期発見    ウ 思考力    エ 主体的
- ② ア 筋道    イ 回復    ウ 判断力    エ 自主的
- ③ ア 計画    イ 回復    ウ 判断力    エ 主体的
- ④ ア 筋道    イ 早期発見    ウ 判断力    エ 自主的
- ⑤ ア 筋道    イ 回復    ウ 思考力    エ 自主的

10

- (8) 次の文は、指導計画の作成と内容の取扱いに関する健やかな体についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の(ア)を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における(イ)の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び(ウ)の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で(エ)生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

- |   |   |        |   |       |   |       |   |      |
|---|---|--------|---|-------|---|-------|---|------|
| ① | ア | 教育活動全体 | イ | 食育    | ウ | 特別活動  | エ | 活力ある |
| ② | ア | 年間指導計画 | イ | ICT活用 | ウ | 特別活動  | エ | 充実した |
| ③ | ア | 教育活動全体 | イ | 食育    | ウ | クラブ活動 | エ | 充実した |
| ④ | ア | 年間指導計画 | イ | ICT活用 | ウ | クラブ活動 | エ | 充実した |
| ⑤ | ア | 教育活動全体 | イ | 食育    | ウ | クラブ活動 | エ | 活力ある |

11

- (9) 次の文は、指導計画の作成と内容の取扱いに関する教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、(ア)な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、(イ)の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、(ウ)との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、(エ)な運営体制が整えられるようにするものとする。

- |   |   |     |   |     |   |        |   |      |
|---|---|-----|---|-----|---|--------|---|------|
| ① | ア | 積極的 | イ | 連帯感 | ウ | 年間指導計画 | エ | 持続可能 |
| ② | ア | 自発的 | イ | 連帯感 | ウ | 教育課程   | エ | 持続可能 |
| ③ | ア | 積極的 | イ | 連帯感 | ウ | 教育課程   | エ | 継続可能 |
| ④ | ア | 積極的 | イ | 一体感 | ウ | 年間指導計画 | エ | 持続可能 |
| ⑤ | ア | 自発的 | イ | 一体感 | ウ | 教育課程   | エ | 継続可能 |

12

【3】「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」（平成30年7月 文部科学省）に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、保健体育科改訂の趣旨に関する改善の具体的事項についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「体育」の知識については、言葉や文章など明確な形で表出することが可能な(ア)だけでなく、勘や(イ)、経験に基づく知恵などの暗黙知を含む概念であり、意欲、(ウ)、運動の技能などの源となるものである。また、体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識を理解することにとどまらず、運動の実践及び生涯スポーツにつながる概念や法則などの(エ)な知識等の定着を図ることが重要である。その際、動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることが必要である。

- |   |   |     |   |    |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 形式知 | イ | 感覚 | ウ | 判断力 | エ | 総合的 |
| ② | ア | 具体知 | イ | 感覚 | ウ | 判断力 | エ | 総合的 |
| ③ | ア | 形式知 | イ | 直感 | ウ | 思考力 | エ | 汎用的 |
| ④ | ア | 具体知 | イ | 直感 | ウ | 判断力 | エ | 汎用的 |
| ⑤ | ア | 形式知 | イ | 感覚 | ウ | 思考力 | エ | 総合的 |

- (2) 次の文は、保健体育科改訂の要点に関する体づくり運動についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「体づくり運動」については、生徒の運動経験、能力、興味、関心等の多様化の現状を踏まえ、体を動かす楽しさや心地よさを味わせるとともに、健康や体力の状況に応じて自ら体力を高める方法を身に付けさせ、地域などの(ア)で生かせるよう改善を図った。

具体的には、「体ほぐしの運動」において、「心と体は互いに(イ)し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと」を改め、「手軽な運動を行い、心と体は互いに(イ)し変化することや心身の状態に気付き、仲間と(ウ)に関わり合うこと」を内容として示した。

また、従前「体力を高める運動」として示していたものを、体力の必要性を認識し、日常的に継続して高める能力の向上が重要であることから、「実生活に生かす運動の計画」として新たに示した。

なお、「保健」との関連を図った指導を充実する観点から、「内容の取扱い」に、「保健」における(エ)と回復などの内容との関連を図ることを引き続き示した。

- |   |       |      |       |           |
|---|-------|------|-------|-----------|
| ① | ア 実生活 | イ 関係 | ウ 主体的 | エ 心の健康    |
| ② | ア 実社会 | イ 関係 | ウ 自主的 | エ 心の健康    |
| ③ | ア 実生活 | イ 関係 | ウ 主体的 | エ 精神疾患の予防 |
| ④ | ア 実社会 | イ 影響 | ウ 自主的 | エ 精神疾患の予防 |
| ⑤ | ア 実社会 | イ 影響 | ウ 主体的 | エ 精神疾患の予防 |

- (3) 次の文は、保健体育科の目標及び内容に関する教科の目標についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生涯にわたって心身の健康を保持増進しとは、保健を通して培う(ア)な目標を示したものである。現在及び将来の生活において、自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、その大切さについての認識を深めるとともに、健康に関する課題に対して保健の知識及び技能等を習得、活用して、自他の健康の保持増進や(イ)、それを支える環境づくりを目指して的確に思考、判断し、それらを表現することができるような資質・能力を育成することを目指している。ここには、健康・安全について(ウ)に理解することを通して、心身の健康の保持増進に関する内容を単に記憶としてとどめることではなく、生徒が現在及び将来の生活において健康に関する課題に対して、(ウ)な思考と正しい判断の下に適切な意思決定・(エ)を行い、適切に実践していくための思考力、判断力、表現力等が含まれている。

- |   |   |     |   |    |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|----|---|-----|---|------|
| ① | ア | 総合的 | イ | 回復 | ウ | 実践的 | エ | 思考判断 |
| ② | ア | 総合的 | イ | 回復 | ウ | 科学的 | エ | 思考判断 |
| ③ | ア | 包括的 | イ | 維持 | ウ | 実践的 | エ | 思考判断 |
| ④ | ア | 包括的 | イ | 回復 | ウ | 科学的 | エ | 行動選択 |
| ⑤ | ア | 総合的 | イ | 維持 | ウ | 実践的 | エ | 行動選択 |

(4) 次の文は、保健体育科の目標及び内容に関する目標についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

責任に関しては、練習や試合、発表会などを主体的に進める上で、役割を(ア)に引き受け、仲間と合意した役割に責任をもって取り組もうとする意思をもち、自己の責任を果たそうとする意欲を高めることである。

参画に関しては、グループの課題などの話し合いなどで、自らの意思を伝えたり、仲間の意見を聞き入れたりすることを通して、仲間の感情に(イ)合意形成を図ろうとするなどの意思をもち、チームやグループの(ウ)などに参画しようとする意欲を高めることである。

共生に関しては、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、人には違いがあることに配慮し、よりよい環境づくりや活動につなげようとすることに主体的に取り組もうとする意思をもち、一人一人の違いを越えて取り組もうとする(エ)を高めることである。

- |   |   |     |   |      |   |      |   |    |
|---|---|-----|---|------|---|------|---|----|
| ① | ア | 積極的 | イ | 配慮して | ウ | 意思決定 | エ | 意欲 |
| ② | ア | 積極的 | イ | 寄り添い | ウ | 意思決定 | エ | 意識 |
| ③ | ア | 自発的 | イ | 配慮して | ウ | 意見集約 | エ | 意欲 |
| ④ | ア | 自発的 | イ | 寄り添い | ウ | 意思決定 | エ | 意欲 |
| ⑤ | ア | 積極的 | イ | 配慮して | ウ | 意見集約 | エ | 意識 |

【4】保健分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

- (1) 次の文は、救命の連鎖についての記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

急変した傷病者を救命し、（ア）させるために必要となる一連の行いを「救命の連鎖」という。「救命の連鎖」を構成する4つの輪がすばやくつながると救命効果が高まる。鎖の1つめの輪は心停止の予防、2つめの輪は心停止の（イ）と通報、3つめの輪は一次救命処置（（ウ）とAED）、4つめの輪は救急救命士や医師による高度な救命医療を意味する二次救命処置と心拍再開後の（エ）である。

- |   |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 自立活動 | イ | 早期認識 | ウ | 胸骨圧迫 | エ | 集中治療 |
| ② | ア | 社会復帰 | イ | 早期認識 | ウ | 胸骨圧迫 | エ | 投薬治療 |
| ③ | ア | 社会復帰 | イ | 早期認識 | ウ | 心肺蘇生 | エ | 集中治療 |
| ④ | ア | 自立活動 | イ | 早期発見 | ウ | 心肺蘇生 | エ | 投薬治療 |
| ⑤ | ア | 社会復帰 | イ | 早期発見 | ウ | 胸骨圧迫 | エ | 集中治療 |

17

- (2) 次の文は、感染症予防についての記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

感染症予防の三原則は、「感染源の排除」「感染経路の遮断」「抵抗力を高める」である。

- ・「感染源の排除」とは、患者の（ア）、汚染源の排除、消毒などにより感染源となるものを除去することである。学校においては、流行情報の把握や健康観察等による感染症の兆候の早期発見、（イ）、有症者の管理、汚染物の適切な処理などにより感染源となるものを遠ざけることである。
- ・「感染経路の遮断」とは、日頃から、手洗いや（ウ）、換気、食品の衛生管理などを徹底させ、体内に感染源（病原体）を入れないようにすることである。
- ・「抵抗力を高める」とは、バランスのとれた食事、適度な運動、規則正しい生活習慣を身に付けたり、予防接種を受けるなどして（エ）を高めることである。

- |   |   |    |   |        |   |        |   |      |
|---|---|----|---|--------|---|--------|---|------|
| ① | ア | 特定 | イ | 早期治療勧告 | ウ | 咳エチケット | エ | 抗体反応 |
| ② | ア | 隔離 | イ | 出席停止   | ウ | マスク着用  | エ | 免疫力  |
| ③ | ア | 特定 | イ | 出席停止   | ウ | 咳エチケット | エ | 抗体反応 |
| ④ | ア | 隔離 | イ | 早期治療勧告 | ウ | 咳エチケット | エ | 免疫力  |
| ⑤ | ア | 特定 | イ | 早期治療勧告 | ウ | マスク着用  | エ | 免疫力  |

18



(3) 次の文は、保健教育で用いられる指導方法についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア ブレインストーミングとは、様々なアイデアや意見を出していく活動である。

イ ロールプレイングとは、健康課題に直面する場面を設定し、当事者の心理状態や対処の仕方等を疑似体験する活動である。

ウ フィールドワークとは、実物等を用いて体を動かす活動である。

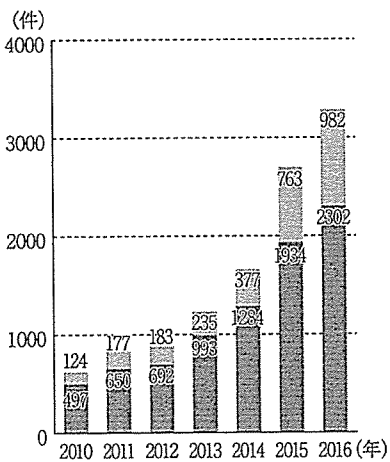
エ 実験とは、仮説を設定し、これを検証したり、解決したりする活動である。

オ 実習とは、実情を見に行ったり、課題解決に必要な情報に詳しい人に質問したりする活動である。

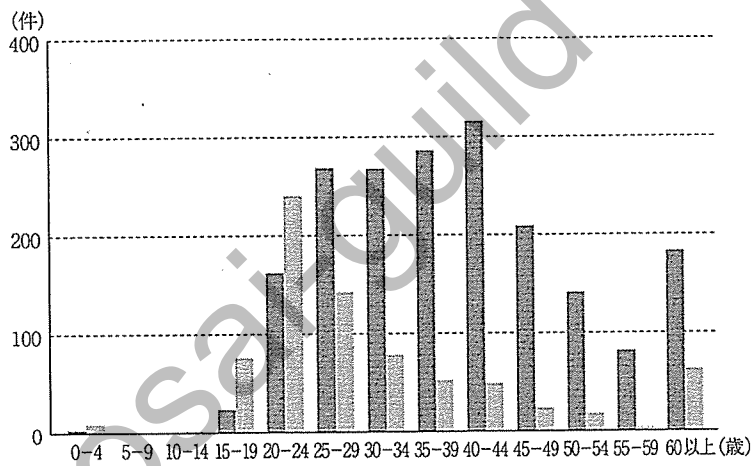
- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | ○ | イ | × | ウ | ○ | エ | ○ | オ | ○ |
| ② | ア | × | イ | ○ | ウ | × | エ | ○ | オ | × |
| ③ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | ○ | エ | × | オ | × |
| ④ | ア | × | イ | × | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ⑤ | ア | ○ | イ | ○ | ウ | × | エ | ○ | オ | × |

(4) 次のグラフは、性感染症「梅毒」についての報告数の推移である。グラフから読み取れることとして適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

梅毒報告数の推移



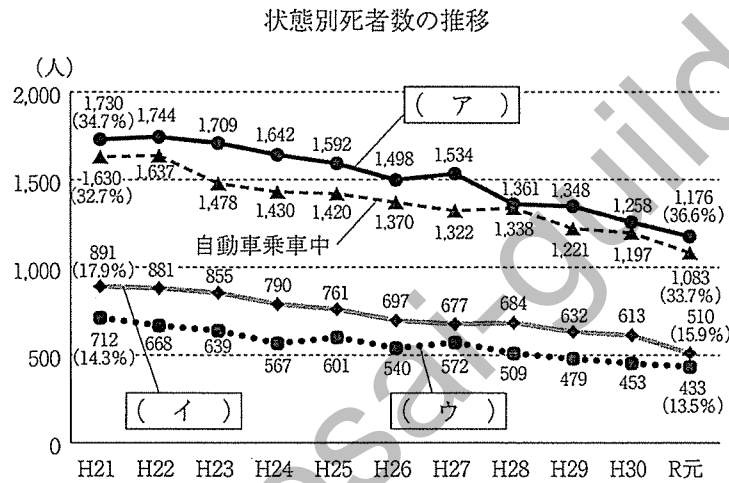
年齢別にみた梅毒報告数(2015年)



(平成28年度作成 厚生労働省 2015年、2016年は暫定値)

- ① 梅毒報告数は年々増加傾向にある。
- ② 2015年の報告において、梅毒に感染した女性は20代前半が最も多い。
- ③ 梅毒に感染している数が男性よりも女性の方が少ないのは、女性が梅毒に対して抗体を多く持っているためである。
- ④ 2015年の報告において、梅毒に感染した男性は40代前半が最も多い。
- ⑤ 梅毒報告者数は、男女ともに増加傾向にある。

(5) 次のグラフは、交通死亡事故の発生状況等についての状態別死者数の推移のグラフである。グラフ中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

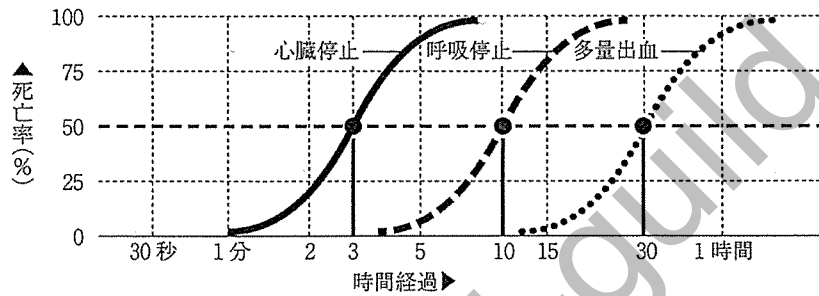


(注) ・( )内は死者数に占める構成率

(令和2年2月 警察庁交通局)

- |   |          |          |          |
|---|----------|----------|----------|
| ① | ア 歩行中    | イ 二輪車乗車中 | ウ 自転車乗車中 |
| ② | ア 二輪車乗車中 | イ 自転車乗車中 | ウ 歩行中    |
| ③ | ア 自転車乗車中 | イ 歩行中    | ウ 二輪車乗車中 |
| ④ | ア 二輪車乗車中 | イ 歩行中    | ウ 自転車乗車中 |
| ⑤ | ア 歩行中    | イ 自転車乗車中 | ウ 二輪車乗車中 |

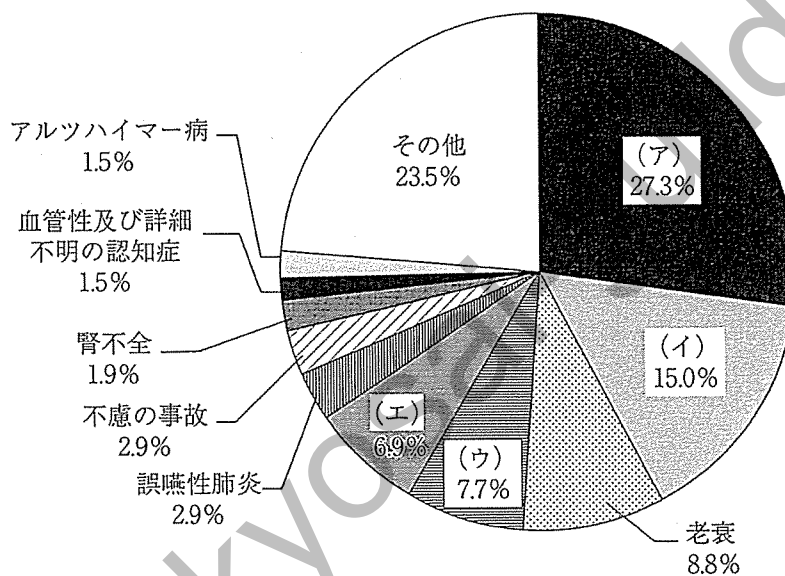
(6) 次の図は、命にかかわる事態が起こってからの時間と死亡率の関係を表したものである。救命についての記述として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



(大修館書店 『保健体育』平成28年度発行版)

- ① 心臓停止から3分で50%の人が死亡する。
- ② 呼吸停止から10分で75%の人が死亡する。
- ③ 多量出血から3分で30%の人が死亡する。
- ④ 心臓停止も多量出血も10分で100%の死亡率となる。
- ⑤ 呼吸停止から8分で60%の人が死亡する。

(7) 次のグラフは、「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（概数）の概況」（厚生労働省）で示されている、主な死因の構成割合を表したグラフである。（ア）～（エ）にあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- |   |         |         |         |         |
|---|---------|---------|---------|---------|
| ① | ア 悪性新生物 | イ 心疾患   | ウ 脳血管疾患 | エ 肺炎    |
| ② | ア 心疾患   | イ 悪性新生物 | ウ 肺炎    | エ 脳血管疾患 |
| ③ | ア 悪性新生物 | イ 心疾患   | ウ 肺炎    | エ 脳血管疾患 |
| ④ | ア 心疾患   | イ 悪性新生物 | ウ 脳血管疾患 | エ 肺炎    |
| ⑤ | ア 心疾患   | イ 肺炎    | ウ 悪性新生物 | エ 脳血管疾患 |

(8) 次の表は、「学校環境衛生管理マニュアル [平成30年度改訂版]」(文部科学省)に示されている学校内の場所による照度基準をまとめたものである。表中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

場所		照度基準 (ルクス)
空間	被服教室、コンピュータ教室、実験実習室、図書閲覧室、保健室	500
	教室	300
	(ア)	300
	(イ)	200
	(ウ)	150
	(エ)	100

- ① ア 体育館    イ 廊下・渡り廊下    ウ 階段    エ 便所・洗面所
- ② ア 階段    イ 廊下・渡り廊下    ウ 便所・洗面所    エ 体育館
- ③ ア 体育館    イ 階段    ウ 廊下・渡り廊下    エ 便所・洗面所
- ④ ア 階段    イ 体育館    ウ 便所・洗面所    エ 廊下・渡り廊下
- ⑤ ア 体育館    イ 便所・洗面所    ウ 階段    エ 廊下・渡り廊下

24

(9) 次の文は、応急手当と心肺蘇生法についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 傷病者の傷病の状況に応じて行う一時的な手当のことを応急手当という。

イ 応急手当には、「症状の悪化を防ぐ」「苦痛を和らげ、安心感を与える」「治療後の回復を早める」などの目的がある。

ウ 心肺蘇生において、胸骨圧迫を行うが、成人の場合は胸の厚さの約 $\frac{1}{3}$ の深さまで圧迫する。

エ 人工呼吸ができる場合は、気道確保を行い、「胸骨圧迫30回+人工呼吸2回」を繰り返す。

オ AEDが心電図を解析し、電気ショックが必要か判定してくれる。

- ① ア ×    イ ×    ウ ○    エ ×    オ ○
- ② ア ○    イ ○    ウ ×    エ ○    オ ○
- ③ ア ○    イ ×    ウ ○    エ ×    オ ×
- ④ ア ○    イ ×    ウ ×    エ ×    オ ○
- ⑤ ア ×    イ ○    ウ ×    エ ○    オ ×

25

(10) 次の文は、呼吸・循環の働きの発達についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 肺に入った酸素は、胸の中に無数にある肺尖で血液中の二酸化炭素と交換される。

イ 呼吸数は成長とともに増え、心拍数は成長と共に減っていく。

ウ 全身の細胞に酸素や栄養素を送り、細胞でいらなくなった二酸化炭素や老廃物を送り返す働きをしているのが循環器である。

エ 1回の呼吸で体内に送り込める空気量を拍出量という。

オ 中程度の強さの運動を行った場合、運動習慣のある人は、運動習慣がない人よりも1分間の心拍数が少ない。

- ① ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ×  
② ア ○ イ ○ ウ × エ × オ ○  
③ ア × イ × ウ ○ エ × オ ○  
④ ア × イ × ウ × エ ○ オ ○  
⑤ ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×

26

(11) 次の文は、心の発達と社会性についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 記憶する、言葉を使う、考える、判断するといった心の働きを情意機能という。

イ うれしさや悲しさといった感情や、ものごとをやり遂げようとする心の働きを知的機能という。

ウ 周りの人を思いやりたり約束を守ったりするなど、社会生活を送る上で必要な態度や行動を社会性という。

エ 情意機能は、人や社会との豊かなかかわりや、努力して物事に取り組むことで発達する。

オ 知的機能は、より複雑なことを考えたり、推理したり、それを他人に説明したりすることができるという事まで含まれる。

- ① ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ○  
② ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ○  
③ ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ×  
④ ア × イ ○ ウ × エ ○ オ ○  
⑤ ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×

27

(12) 次の文は、適応機制について説明した記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 「昇華」 : おさえられた性的欲求などを学問・スポーツ・芸術などに向ける。  
イ 「合理化」 : 苦しくつらい現実から一時的に逃れる。  
ウ 「逃避」 : もっともらしい理由をつけて自分を正当化する。  
エ 「攻撃」 : 他人やものを傷つけたり、規則を破ったりして、欲求不満を解消しようとする。  
オ 「退行」 : 耐えがたい事態に直面したとき、子供のようにふるまって自分を守ろうとする。

- ① ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ○  
② ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ○  
③ ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ×  
④ ア × イ ○ ウ × エ ○ オ ○  
⑤ ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○

28

(13) 次の文は、適応能力について説明した記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 高温多湿の環境でスポーツなどをして適応能力の限界を超えると、脱水症状や塩分の欠乏が起こったり、体温が高くなったりして、体温調節のしくみが働かなくなってしまうことがあり、こうした症状を熱中症という。  
イ 熱中症には、気温と湿度が大きく関係しており、冬はほとんど起こらない。  
ウ 運動中は水分をとった方がよいが、運動前に水分をとるのは熱中症予防にはならない。  
エ 気温が非常に低い高地や冬の海で遭難すると、凍傷になったり低体温症になったりして、最悪の場合には凍死したりすることもある。  
オ 凍傷になっても、寒さで血液の流れが悪くなるだけで、細胞までは破壊されない。

- ① ア ○ イ ○ ウ ○ エ × オ ○  
② ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ×  
③ ア × イ × ウ ○ エ × オ ×  
④ ア × イ ○ ウ × エ × オ ○  
⑤ ア ○ イ × ウ ○ エ ○ オ ×

29



- (14) 次の文は、飲酒と健康についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

発育・発達の時期にある未成年者の体は、大人よりもアルコールの悪影響を受けやすくなっている。これから様々なことを学習して社会へ出て行く時期に、(ア)の萎縮によって、学習能力や集中力、(イ)が低下したり、(ウ)の分泌異常により生殖器官の働きが妨げられたりする可能性がある。アルコールを分解する機能も低いため、(エ)になる危険性も高くなる。

- ① ア 肺    イ 記憶力    ウ 内分泌ホルモン    エ 慢性アルコール中毒  
 ② ア 脳    イ 記憶力    ウ 性ホルモン    エ 急性アルコール中毒  
 ③ ア 脳    イ 運動能力    ウ 性ホルモン    エ 慢性アルコール中毒  
 ④ ア 肺    イ 運動能力    ウ 内分泌ホルモン    エ 慢性アルコール中毒  
 ⑤ ア 脳    イ 運動能力    ウ 内分泌ホルモン    エ 急性アルコール中毒

30

- (15) 次の文は、代表的な生活習慣病についての記述である。文中の(ア)～(オ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・心臓病において虚血性心疾患はその代表で、心筋に栄養と酸素を補給している冠状動脈の(ア)がもとになって起こる病気である。冠状動脈が詰まり、心筋が壊死するものが(イ)、血液が流れにくくなって胸に痛みなどがでるのが(ウ)である。  
 ・脳卒中は、正式には脳血管疾患という。脳内の血管が破れて出血を起こす(エ)と、脳内の血管が詰まって血流がとだえてしまう(オ)などがある。食塩の過剰摂取や飲酒が危険な要因とされている。

- ① ア 硬化    イ 狭心症    ウ 心筋梗塞    エ 脳出血    オ 脳梗塞  
 ② ア 劣化    イ 心筋梗塞    ウ 狭心症    エ 脳梗塞    オ 脳出血  
 ③ ア 硬化    イ 心筋梗塞    ウ 狭心症    エ 脳梗塞    オ 脳出血  
 ④ ア 劣化    イ 狭心症    ウ 心筋梗塞    エ 脳出血    オ 脳梗塞  
 ⑤ ア 硬化    イ 心筋梗塞    ウ 狭心症    エ 脳出血    オ 脳梗塞

31

(16) 次の文は、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約についての記述である。文中の（ア）～（オ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・職場等の（ア）におけるたばこの煙にさらされることからの保護を定める効果的な措置をとる。  
 <（イ）の防止>

・たばこ製品の包装及びラベルについて、消費者に誤解を与えるおそれのある形容的表示等を用いることによりたばこ製品の販売を促進しないことを確保し、主要な表示面の（ウ）以上を健康警告表示に充てる。

・たばこの広告、販売促進及び（エ）を禁止し又は制限する。

・（オ）に対するたばこの販売を禁止するため効果的な措置をとる。

- |   |   |       |   |      |   |     |   |          |   |      |
|---|---|-------|---|------|---|-----|---|----------|---|------|
| ① | ア | 特定の場所 | イ | 能動喫煙 | ウ | 30% | エ | パートナーシップ | オ | 未成年者 |
| ② | ア | 特定の場所 | イ | 受動喫煙 | ウ | 50% | エ | スポンサーシップ | オ | 高齢者  |
| ③ | ア | 公共の場所 | イ | 受動喫煙 | ウ | 30% | エ | スポンサーシップ | オ | 未成年者 |
| ④ | ア | 特定の場所 | イ | 能動喫煙 | ウ | 30% | エ | スポンサーシップ | オ | 高齢者  |
| ⑤ | ア | 公共の場所 | イ | 受動喫煙 | ウ | 50% | エ | パートナーシップ | オ | 未成年者 |

32

(17) 次の文は、ストレス対処と心の健康についての記述である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・ストレス対処の方法として、趣味を楽しんだり、好きな音楽を聴いてゆっくり過ごしたりするなどの（ア）がある。他にも、（イ）などによるリラクゼーションも有効である。また、ときには信頼できる友人に相談するなど、周りの人の力を借りることも有効である。

・心の健康のためには、欲求不満やストレスに適切に対処するだけでなく、自分の決めた目標に向かって努力していこうとする積極的な生き方も必要である。そうした目標に近づくことで、周りにも認められることなどにより、自分に対して生まれた自信を（ウ）という。また、長所も短所も含めてありのままの自分を受け入れようとする気持ちのことを（エ）という。

- |   |   |      |   |            |   |         |   |         |
|---|---|------|---|------------|---|---------|---|---------|
| ① | ア | 気分転換 | イ | 体ほぐしの運動    | ウ | 基本的自尊感情 | エ | 社会的自尊感情 |
| ② | ア | 気分転換 | イ | 体の動きを高める運動 | ウ | 社会的自尊感情 | エ | 基本的自尊感情 |
| ③ | ア | 団らん  | イ | 体ほぐしの運動    | ウ | 基本的自尊感情 | エ | 社会的自尊感情 |
| ④ | ア | 気分転換 | イ | 体ほぐしの運動    | ウ | 社会的自尊感情 | エ | 基本的自尊感情 |
| ⑤ | ア | 団らん  | イ | 体の動きを高める運動 | ウ | 社会的自尊感情 | エ | 基本的自尊感情 |

33

【5】 体育分野に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、体づくり運動についての中学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省）保健体育編の内容における第1学年及び第2学年の例示である。巧みな動きを高めるための運動の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり転がしたりすること。
- ② 大きな動作で、ボールなどの用具を、力を調整して投げたり受けたりすること。
- ③ 走や縄跳びなどを、一定の時間や回数、又は、自己で決めた時間や回数を持続して行うこと。
- ④ 人と組んだり、用具を利用したりしてバランスを保持すること。
- ⑤ 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩いたり、走ったり、跳んだり、素早く移動したりすること。

34

(2) 次の文は、新体力テストに関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 上体起こしでは、マット上で仰臥姿勢をとり、両手を軽く握り、両腕を胸の前で組む。両膝の角度を45°に保つ。
- イ 上体起こしでは、仰臥姿勢から両肘と両大腿部がつくまで上体を起こしたあとすばやく開始時の仰臥姿勢に戻す動き（上体起こし）を20秒間、できるだけ多く繰り返す。
- ウ 持久走（男子1500m、女子1000m）の記録は秒単位とし、秒未満は切り上げる。
- エ 20mシャトルランでは、電子音が次に鳴るまでに20m先の線に達し、足が線を越えてからでない向きを変えられない。
- オ ハンドボール投げの記録はメートル単位とし、メートル未満は切り捨てる。2回実施してよい方の記録をとる。

- ① ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ○
- ② ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ×
- ③ ア × イ ○ ウ × エ ○ オ ○
- ④ ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×
- ⑤ ア × イ × ウ ○ エ × オ ○

35

(3) 次は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における第3学年時の平均台運動の基本的な技から発展技までを分類したものである。適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体操系 → 歩走グループ → 前方歩 → 片足水平バランス
- ② 体操系 → 跳躍グループ → 立ちポーズ → 後方ツーステップ
- ③ 体操系 → 歩走グループ → 後方歩 → 後方ツーステップ
- ④ バランス系 → ターングループ → 両足ターン → 片足水平バランス
- ⑤ バランス系 → ポーズグループ → 立ちポーズ → 片足踏み切り跳び上がり

36

(4) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、器械運動の内容に関する第1学年及び第2学年の記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 跳び箱運動の「屈伸跳び」は、回転系の切り返し跳びグループの技である。
- イ 鉄棒運動の「転向前下り」は、支持系の前方支持回転技群、前方足掛け回転グループの技である。
- ウ マット運動の「ロンダート」は、巧技系のほん転技群、倒立回転・倒立回転跳びのグループの技である。
- エ マット運動の「倒立前転」は、回転系の接点技群、前転グループの技である。
- オ 鉄棒運動の「棒下振り出し下り」は、支持系の後方支持回転技群、後転グループの技である。

- ① ア ○ イ ○ ウ × エ × オ ○
- ② ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ○
- ③ ア ○ イ ○ ウ ○ エ ○ オ ×
- ④ ア × イ × ウ × エ ○ オ ○
- ⑤ ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ×

37

(5) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における陸上競技、走種目の内容に関する第1学年及び第2学年の記述である。文中の(ア)～(オ)にあてはまる数字の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

・走る距離は、短距離走では(ア)m程度、リレーでは一人(イ)m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

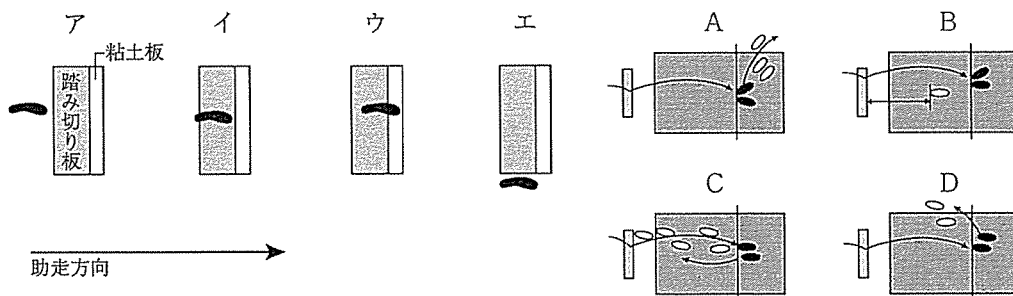
・長距離走の走る距離は、(ウ)m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度や気候等に応じて弾力的に扱うようにする。

・ハードル走の距離は(エ)m程度、その間にハードルを(オ)台程度置くことを目安とするが、生徒の体力や技能の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

- |   |          |           |               |          |        |
|---|----------|-----------|---------------|----------|--------|
| ① | ア 50～100 | イ 100～150 | ウ 1,000～3,000 | エ 50～100 | オ 5～8  |
| ② | ア 80～100 | イ 100～150 | ウ 1,000～3,000 | エ 50～80  | オ 8～10 |
| ③ | ア 50～100 | イ 50～100  | ウ 1,500～3,000 | エ 50～80  | オ 8～10 |
| ④ | ア 80～100 | イ 50～100  | ウ 1,500～3,000 | エ 50～100 | オ 5～8  |
| ⑤ | ア 50～100 | イ 50～100  | ウ 1,000～3,000 | エ 50～80  | オ 5～8  |

38

(6) 次の図は、陸上競技の走り幅跳びにおける踏み切り(ア～エ)と着地(A～D)の位置を表した図で、黒の足型で着地を、白の足型で着地後の動きを表したものである。踏み切りも着地も有効試技となる組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① アとC、ウとB
- ② イとA、エとB
- ③ アとA、イとB
- ④ エとA、エとD
- ⑤ ウとA、エとC

39

(7) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の第3学年及び「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)の入学年次における水泳の各運動種目についての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる数字の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・クロールの距離は、(ア) m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。
- ・平泳ぎの距離は、(イ) m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。
- ・背泳ぎの距離は、(ウ) m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。
- ・バタフライの距離は、(エ) m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度などに応じて弾力的に扱うようにする。

- ① ア 50～100    イ 50～200    ウ 50～100    エ 25～50
- ② ア 50～200    イ 50～200    ウ 25～50    エ 25～50
- ③ ア 50～200    イ 50～100    ウ 50～100    エ 25～50
- ④ ア 50～100    イ 50～200    ウ 25～50    エ 50～100
- ⑤ ア 50～100    イ 50～100    ウ 25～50    エ 50～100

(8) 次の文は、水泳の平泳ぎの技能に関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 両足先をそろえて伸ばした状態から、両膝を引き寄せながら肩の幅に開き、同時に足の裏を下向きにして踵を尻の方へ引き寄せる。

イ けり始めは、親指を外向きにし、土踏まずを中心とした足の裏で水を左右後方に押し出し、膝が伸びきらないうちに両脚で水を押し挟み、最後は両脚を揃えてける。

ウ 両手のひらを上向きにそろえ、腕の前、あごの下から水面と平行に前方へ出す。

エ 両手のひらを斜め外向きにして左右に水を押し開きながら腕を曲げ、手のひらと前腕を後方に向ける。

オ 両肘が肩の横にくるまで手をかき進めたら、両腕で内側後方に水を押しながら胸の前で揃える。

- |   |     |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア × | イ × | ウ × | エ ○ | オ ○ |
| ② | ア × | イ ○ | ウ × | エ ○ | オ ○ |
| ③ | ア ○ | イ ○ | ウ ○ | エ × | オ × |
| ④ | ア ○ | イ × | ウ ○ | エ × | オ ○ |
| ⑤ | ア ○ | イ × | ウ ○ | エ × | オ × |

41

(9) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の第3学年及び「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)の入学年次における球技・ゴール型についての例示である。当該年次の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。
- ② シュートやトライをしたり、パスを受けたりするために味方が作り出した空間に移動すること。
- ③ ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。
- ④ パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。
- ⑤ ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。

42

(10) 次の文は、バスケットボールのルールに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① フロントコート内でボールをコントロールしているチームのプレイヤーは、相手のバスケットに近い制限区域内に3秒を超えてとどまてはいけない。
- ② 制限区域内にいたプレイヤーが、ショットを打つためにドリブルしているときは、途中で3秒を超えても見逃される。
- ③ 3秒ルールの適用はショットなどによるチームのボールコントロールが終わった瞬間に消え、リバウンドボールはどちらのチームもボールをコントロールしていないので適用されない。
- ④ フリースローでは、審判にボールを手渡されてから5秒以内にショットを行わなければならない。
- ⑤ バックコート内でライブのボールをコントロールしたチームは、10秒以内にボールをフロントコート内に進めなければならない。

43

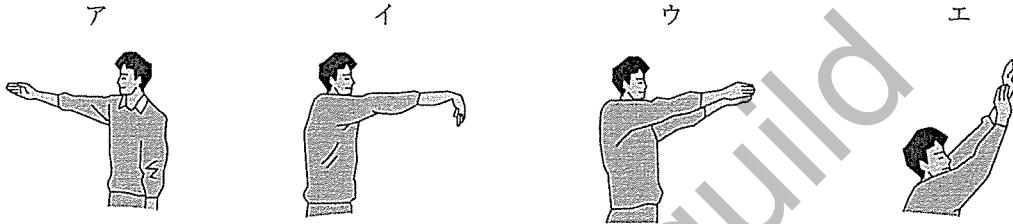
(11) 次の文は、サッカー競技の反則の名称とその説明である。適切でない組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① キッキング → 相手を蹴る、または蹴ろうとする。
- ② ジャンピングアット → 相手にとびかかる。
- ③ ストライキング → 相手プレイヤーを脅かすタックル。
- ④ ファウルチャージ → 不用意に、無謀に、あるいは過剰な力で相手をチャージする。
- ⑤ プッシング → 相手を押す。

44



(12) 次の図は、ハンドボールの審判の合図である。審判の合図ア～エと、その意味を表すA～Dの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。



[A スローイン B ゴールキーパー・スロー C フリースロー D パッシブプレー]

- ① ア→A イ→B ウ→C エ→D  
 ② ア→B イ→C ウ→D エ→A  
 ③ ア→C イ→B ウ→A エ→D  
 ④ ア→D イ→B ウ→A エ→C  
 ⑤ ア→C イ→B ウ→D エ→A

45

(13) 次の文は、バレーボールの成り立ちについての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア バレーボールは、アメリカのマサチューセッツ州のYMCAにいたW・G・モーガンが考案した。  
 イ 考案した当初は、ミントネットと名付けられたが後にバレーボールに改名された。  
 ウ 日本には、1908年に嘉納治五郎によって紹介された。  
 エ 日本では、1913年にYMCAのF・H・ブラウンが16人制を指導したのが始まりであるといわれており、その後12人制が採用され、6人制が主流となっていった。  
 オ 1960年のローマオリンピックから、6人制のバレーボールがオリンピックの正式種目となった。

- ① ア × イ ○ ウ × エ × オ ○  
 ② ア × イ × ウ × エ ○ オ ○  
 ③ ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×  
 ④ ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ×  
 ⑤ ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ○

46

(14) 次の文は、卓球のサービスに関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア サービスするときに、ボールはコートより高い位置でエンドラインの後方になければいけない。
- イ ボールをレシーバーから隠してはいけない。
- ウ シングルスの場合、サービスがネットして入ったら2回までやり直すことができる。
- エ ダブルスの場合、第1ゲームは最初にサービス権をもったペアが、どちらがサーバーになるかを定めるが、レシーブするペアは、どちらがレシーバーになるかは決めなくてもよい。
- オ ダブルスの場合、サーバーは自分のコートの右サイドから相手のコートの右サイドに打たなければならない。

- ① ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ×
- ② ア × イ × ウ × エ ○ オ ○
- ③ ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×
- ④ ア × イ × ウ ○ エ × オ ○
- ⑤ ア ○ イ ○ ウ × エ × オ ○

47

(15) 次の文は、バドミントンについての記述である。打球の名称と内容の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① クリアー → 高い打点、角度でラケットを鋭く振り切る打球
- ② ドロップ → 相手コート前方に打球の勢いを極力ぬいて落とす打球
- ③ プッシュ → ネット際に落とされたシャトルをネットすれすれにはわせるように力を入れず指にゆとりを持ち指先で打つ打球
- ④ ヘアピン → ネット近くに浮いてきたシャトルをバックスイングなしで押すようにして打つ打球
- ⑤ スマッシュ → 相手コート深くに飛ぶ打球

48

(16) 次の文は、ソフトボールに関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 不正投球のことをフィルダースチョイスという。

イ 守備側の監督、投手、捕手のいずれかが、球審にその旨を通告すれば、1球も投げることなく1塁に歩かせることができることを故意四球という。

ウ 盗塁のことをスチールという。

エ 打者が1塁に出塁しようとして、内野手の虚をついて行うバントをセーフティバントという。

オ フェアゴロを捕球し、1塁で走者をアウトにできるのに、先行走者をアウトにしようと考えて送球しようとしたが結果としてどちらもアウトにできなくなったプレーをイリーガルピッチという。

- ① ア ○ イ ○ ウ × エ × オ ○  
② ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ○  
③ ア × イ ○ ウ ○ エ ○ オ ×  
④ ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○  
⑤ ア ○ イ ○ ウ ○ エ × オ ×

49

(17) 次の文は、テニス・ソフトテニスの成り立ちに関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア テニスの元になるものは、11世紀のフランスの修道院で行われていた、板でボールを打ち合うジュ・ド・ポームという遊びであった。

イ イギリスで近代化が図られながら発展し、19世紀ごろには芝のコートで行われるローンテニス（硬式テニス）となった。

ウ 日本には、1878年にアメリカのリーランドによって伝えられたといわれている。

エ 日本では、フェルト製ボールの代用として、てまり用のゴム球を使用し、これが軟式庭球の始まりとなった。

オ 1992年にソフトテニスへと名称変更され、1992年のバルセロナオリンピック大会で初の正式種目として採用された。

- ① ア × イ × ウ ○ エ × オ ○  
② ア ○ イ ○ ウ ○ エ ○ オ ○  
③ ア ○ イ × ウ ○ エ ○ オ ×  
④ ア ○ イ × ウ × エ × オ ○  
⑤ ア × イ ○ ウ ○ エ ○ オ ×

50

(18) 次の文は、柔道の技について説明した記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 膝車 → 「取」は、「受」を右前すみに崩し、「受」の右膝に、左足裏を当て、それを軸に車のように回転させて「受」の前方に投げる。
- ② 支え釣り込み足 → 「取」は、「受」を右前すみに崩し、「受」の右足首を左足裏で支え、引き手、釣り手で釣り上げるようにして、腰の回転を効かせて受の前方に投げる。
- ③ 体落とし → 「取」は、「受」を右前すみに崩し、「受」に重なる様に回りこみ、さらに右足を一步「受」の右足の外側に踏み出し、両腕と両膝の伸展を利用して「受」を前方に投げ落とす。
- ④ 大腰 → 「取」は、「受」を前に崩し、「受」の後ろ腰に右腕を回し、「受」と重なり、両膝の伸展、引き手、後ろに回した右腕を使い、「受」を腰に乗せ前方に投げる。
- ⑤ 釣り込み腰 → 「取」は、「受」を右前すみに崩し、「受」をしっかりと引きつけ、左足を軸に右脚で前方から「受」の右脚外側を払い上げ、前方に投げる。

51

(19) 次の文は、剣道のしかけ技について説明した記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 最初の面打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つこと。(面一面)
- ② 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つこと。(引き面)
- ③ 相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つこと。(出ばな面)
- ④ 相手の竹刀を払ったとき、隙ができた面を打つこと。(払い面)
- ⑤ 相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つこと。(小手抜き面)

52

(20) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の第3学年及び「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)の入学年次における現代的なリズムのダンスについての例示である。当該年次の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ること。
- ② 選んだリズムや音楽の特徴を捉え、変化のある動きを連続して、個と群や空間の使い方を強調した構成でまとまりを付けて踊ること。
- ③ 軽快なロックでは、全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ること。
- ④ リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ること。
- ⑤ リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ること。

53

(21) 次の文は、創作ダンスの隊形や動きについての記述である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

個や群での動きとは、即興的に表現したり作品にまとめたりする際のグループにおける個人や集団の動きを示している。個人や集団の動きには、(ア)の動き、(イ)という一斉の同じ動きやばらばらの異なる動き、(ウ)という集団の動きを少しずつずらした動き、(エ)の動きなどがある。

- |   |         |           |            |         |
|---|---------|-----------|------------|---------|
| ① | ア 主役と脇役 | イ アフタービート | ウ カノン      | エ 密集や分散 |
| ② | ア 明と暗   | イ アフタービート | ウ カノン      | エ 集合や拡散 |
| ③ | ア 主役と脇役 | イ ユニゾン    | ウ シンコペーション | エ 密集や分散 |
| ④ | ア 主役と脇役 | イ ユニゾン    | ウ カノン      | エ 密集や分散 |
| ⑤ | ア 明と暗   | イ ユニゾン    | ウ シンコペーション | エ 集合や拡散 |

54

【6】 体育理論に関する内容について、次の問いに答えよ。

(1) 次の文は、スポーツの技術と戦術についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア 陸上競技、水泳（競泳）、器械運動などでは、競争相手から直接影響を受けることが少なく、解決すべき課題やそれに対応する技術は大きく変化しない。このような、安定した環境の中で用いられる技術をオープンスキルという。

イ 球技や柔道、剣道などのように、絶えず変化する状況の中で用いられる技術をクローズドスキルという。

ウ 相手や周りの状況に応じて最適な技術を選択したり、技術と技術を組み合わせたりする合理的な方法を戦略という。

エ 実際のゲームに先立って、味方や相手チームの特徴を分析し、どのような戦術を適応するか、あらかじめ計画をたてておくことを作戦という。

オ 個人やチームの技能を高め、競技会で最高の成績をあげるために、長期的な見通しのもとで、体力トレーニングや練習内容、スケジュール、選手の起用の仕方を決めるなどの方針を戦術という。

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | ○ | イ | ○ | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ② | ア | ○ | イ | × | ウ | × | エ | ○ | オ | ○ |
| ③ | ア | × | イ | ○ | ウ | × | エ | ○ | オ | × |
| ④ | ア | × | イ | × | ウ | ○ | エ | × | オ | ○ |
| ⑤ | ア | × | イ | × | ウ | × | エ | ○ | オ | × |

55

(2) 次の夏季オリンピックの開催年、開催国、開催都市の組合せで、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- |   | <開催年> |   | <開催国>  |   | <開催都市>   |
|---|-------|---|--------|---|----------|
| ① | 1960年 | - | フィンランド | - | ヘルシンキ    |
| ② | 1984年 | - | アメリカ   | - | ロサンゼルス   |
| ③ | 1996年 | - | アメリカ   | - | アトランタ    |
| ④ | 2012年 | - | イギリス   | - | ロンドン     |
| ⑤ | 2016年 | - | ブラジル   | - | リオデジャネイロ |

56

(3) 次の文は、パラリンピック大会についての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア パラリンピックは、障がいのあるトップアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会である。夏季大会と冬季大会があり、国際パラリンピック委員会（IPC）は、大会を通じ共生社会の実現を促進することを目指している。それぞれオリンピックの開催年の次の年に、原則としてオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われる。

イ 様々な障がいのあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックは、多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場である。すなわち、共生社会を具現化するための重要なヒントが詰まっている大会である。

ウ パラリンピックムーブメントは、パラスポーツを通して発信される価値やその意義を通して世の中の人に気づきを与え、よりよい社会を作るための社会変革を起こそうとするあらゆる活動のことを指す。パラリンピックムーブメントの推進は、パラリンピアンや大会の関係者だけでなく、社会変革を起こそうとする人、団体すべてが担う。

エ パラリンピックのシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれている。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現している。赤・青・黄の三色は、世界の国旗で最も多く使用されている色ということで選ばれた。

オ 国際パラリンピック委員会（IPC）は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、勇気、強い意志、インスピレーション、公平の四つの価値を重視している。

- ① ア ○ イ × ウ ○ エ × オ ×  
② ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○  
③ ア × イ ○ ウ × エ ○ オ ×  
④ ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ○  
⑤ ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ×

(4) 次の文は、ドーピングについての記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ア ドーピングとは「スポーツにおいて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位に立ち、勝利を得ようとする行為」のことである。

イ 禁止薬物を意図的に使用することだけをドーピングと呼ぶ。

ウ ルールに反する様々な競技能力を高める「方法」や、それらの行為を「隠すこと」は、ドーピングに含まれない。

エ ドーピングは、自分自身の努力や、チームメイトとの信頼、競い合う相手へのリスペクト、スポーツを応援する人々の期待などを裏切る、不誠実で利己的な行為である。

オ アンチ・ドーピングとは、ドーピング行為に反対し、スポーツがスポーツとして成り立つための、教育・啓発や検査といった様々な活動のことである。

- ① ア ○ イ ○ ウ × エ ○ オ ×  
② ア × イ ○ ウ ○ エ × オ ○  
③ ア ○ イ × ウ × エ ○ オ ○  
④ ア ○ イ ○ ウ ○ エ × オ ×  
⑤ ア × イ × ウ ○ エ ○ オ ○



- (5) 次の文は、中学校の保健体育の授業で「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」について学習した際のノートに書かれていた生徒の記述である。それに対する教師の助言指導として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

私は、運動やスポーツによって、ストレスを解消したり、リラックスしたりできるので、運動を続けていこうと思います。それから、体力や運動技能が維持できたり、向上させたりできるので、目標をもって運動を継続していきたいと考えています。運動の中でも、私の弱点は「巧みさ」なので、毎日ランニングをするなどして全身持久力を高めていきたいです。また、たくさん運動しながら、食事の量を減らせば痩せることもできるので、運動したらあまり食べないようにしていきます。

- ① 運動には、体だけでなく心の状態にもよい影響を及ぼすので、気持ちが沈んだときに運動してみるといいですね。
- ② 運動で使うエネルギーより、食事でとるエネルギーが多いと肥満になったりしますが、極端に食事を減らしたりせずに、適量の食事をとることが大切ですね。
- ③ 中学校の間は、呼吸器、循環器の発達が著しいため、「巧みさ」より「ねばり強さ」につながる運動を行った方がよいですね。
- ④ 全身持久力を高めたいのであれば、鉄棒を使った懸垂運動を行った方がよいですね。
- ⑤ ランニングではなくて、バランスをとって動いたり、人やボールの動きに対応して動いたりする運動を行った方がよいですね。

教科名 ( 中高 保健体育 ) (120点)

マーク 番号	解答	配点	備考	マーク 番号	解答	配点	備考
1	4	1	道徳	31	5	2	
2	2	2		32	3	2	
3	4	2		33	4	2	
4	2	2		34	3	2	
5	1	2		35	5	2	
6	5	2		36	3	2	
7	4	2		37	4	2	
8	1	2		38	5	2	
9	4	2		39	3	2	
10	5	2		40	2	2	
11	1	2		41	2	2	
12	2	2		42	2	2	
13	3	2		43	5	2	
14	5	2		44	3	2	
15	4	2		45	3	2	
16	1	2		46	3	2	
17	3	2		47	5	2	
18	4	2		48	2	2	
19	5	2		49	3	2	
20	3	2		50	5	2	
21	1	2		51	5	2	
22	1	3		52	5	2	
23	1	3		53	2	2	
24	5	2		54	4	2	
25	2	2		55	5	2	
26	3	2		56	1	2	
27	2	2		57	4	2	
28	5	2		58	3	2	
29	2	2		59	4	3	
30	2	2		60			